浜松工科自動車大学校　令和7年度自己点検評価表

令和8年3月31日

目　　次

・1.学校の教育目標 …… 3

・2.本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 …… 5

・3. 評価項目の達成及び取組状況 …… 7

機関評価

（1）. 教育理念・目標・育成人材像…… 7

（2）. 学校運営 …… 9

（3）. 教育活動 …… 11

（4）. 学修成果 …… 13

（5）. 学生支援 …… 15

（6）. 教育環境 …… 18

（7）. 学生募集 …… 20

（8）. 財務 …… 22

（9）. 法令遵守 …… 24

（10）. 社会貢献・地域貢献 …… 26

（11）. 国際交流 …… 27

職業実践専門課程認定要件適合評価

（1）～（11）機関評価に掲載のため省略

（12）. 職業実践専門課程の認定要件…… 28

国土交通省自動車整備士一種養成施設指定基準に基づく評価(分野別評価・機関評価に相当)

（1）. 教育理念・目的・育成人材像 …… 30

(2). 学校運営…… 32
(3). 教育活動…… 34
(4). 学修成果…… 36
(6). 教育環境…… 37
(9). 法令の順守…… 38

自動車整備士分野の教育の質保証・特徴化に向けた取り組み内容の評価(分野別評価に相当)
(3). 教育活動…… 39
(4). 学修成果…… 40
(0). 全般…… 41

・4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 …… 42

1．学校の教育目標

学校法人　静岡自動車学園　経営方針　　「技術者の育成をもって地域社会に貢献する」

専門学校浜松工科自動車大学校

1 教育理念　　「社会のニーズにマッチした高いレベルの専門教育と人間性の育成」

2 事業ビジョン

（1）学生や父母等が「成長」を感じるとともに、「感動」を与え、すべての関係者（業界、企業、高校、地域）から喜ばれるような、質の高い教育サービスを提供する。

（2）様々な手法により学校教育活動及びその教育成果を地域社会へ周知し、学校の認知度を高めるとともに、安定した募集活動を展開する。

（3）経費、労務管理等においては、健全で効率的な学校経営を行う。

（4）将来の発展に向け、グローバルな視野と柔軟な発想により様々な可能性を模索し、時代の要請に合った新しい教育サービスを提供する。

3 事業目標

（1）教育の質の向上

・専門知識、技術及び社会人教育においては、「何を教えた」のではなく、「何ができる（わかる）」ようになったかに重きを置き、創意工夫による質の高い教育を展開する。

・産学連携を推進し業界ニーズに合った教育環境（教育カリキュラム、教材、機器、施設設備）を構築する。

・研修及び授業研究などの FD 推進により、教職員のスキル（知識、技術、指導力）向上に努める。

・資格取得率及び就職率の他、様々な教育活動において高い教育成果を達成する。

・産学連携を推進し業界ニーズに合った教育環境（教育カリキュラム、教材、機器、施設設備）を構築する。

（2）戦略的な募集活動の推進

・PDCAのマネジメントサイクルにより常に募集活動を見直し、入学定員を確保する。

・企業奨学制度や高校や日本語学校との連携教育など、生徒や父母等、高校、企業が共に喜ぶ活動を推進し、安定した募集活動を展開する。

・学校教育活動を広く周知し認知度の向上を図るとともに、「選ばれる学校ブランド」を確立する。

（3）学校経営の健全化を推進

・PDCAのマネジメントサイクルの確実な実行により「ムリ、ムラ、ムダ」を取り除いた効率的かつ生産的な学校経営を行う。

・人材育成（教員、幹部職員）を推進するとともに、優秀な人材を確保する。

・学校業務を体系的に整理し、システム化、マニュアル化を推進することにより、業務の効率化を図る。

（4）新しい教育サービスの企画・立案

・地域に根ざした新たな教育サービスの企画・開発を行う。

4 数値目標

（1）基本金組入前当年度収支差額は 3 ヶ年で 2,300 万円。

（参考） 2025 年度（R7）：△2,500 万円、2026 年度（R8）：1,800 万円、2027 年度（R9）：3,000 万円

（2）学内振替支出（その他引当特定資産繰入支出額）は 3 ヶ年で 4,000 万円。

（参考） 2025 年度（R7）：0 万円、2026 年度（R8）：1,500 万円、2027 年度（R9）：2,500 万円。

2. 本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1　運営目標

(1)入学募集定員の充足

①新入生定員充足　90 名

　自動車システム工学科　40　名、自動車整備科　25　名、国際オートメカニック科　25　名

　※オープンキャンパス、個別相談会参加者数(留学生を除く)前年比+20%

② 内部進学学生10名

　自動車システム工学科(1 級)　8　名、静岡工科の専攻科2　名

　※1 年次は自動車整備科と自動車システム工学科との混成クラス編成により、1 級課程への誘導を積極的に推進

2　重点実施事項

(1)教育成果の向上(学校評価向上)

① 資格取得率の目標達成

　自動車整備科、自動車システム工学科 2 年、国際オートメカニック科 3 年　　二級(ガソリン・ジーゼル)自動車整備士　100%

　国際オートメカニック科 1 年　　日本語能力検定 N3 取得率 100%

　国際オートメカニック科 2 年　　日本語能力検定 N2 取得率 50%

　国際オートメカニック科 3 年　　日本語能力検定 N2 取得率 80%

　その他の資格は前年度以上の合格率、取得率を目指す

※科目担当者による実力の底上げ、授業の効率化、モチベーションの維持、向上

② 退学者の減少(3%以内)

③ 就職斡旋希望者全員内定(内定率 100%)

(2)教職員個々のレベルアップ

① 授業アンケート評価の向上(個人は前年比+1%向上、全体平均 80%以上)

※授業の自己評価と研究授業の活用、経験の多い職員から積極的な助言・指導

② 目標資格の取得またはスキル向上研修等への参加

(3)学校教育力の向上(教員資質の向上)

① 授業研究の実施による評価向上

② クラス運営に関する研修実施と評価・検証

③ 新整備士試験制度への対応(カリキュラムの見直し、変更)

(4)学校認知度の向上(選ばれる学校づくり)

① 魅力ある教育活動の発信(募集に繋がる広報活動の推進)

SNS を積極的に活用、広報イベントへの積極的な参加

② 浜松カーフェスティバルの開催

③ 中学生、高校生の職場体験実習の推進

④ HAT‘S メカニックコンテストの実施

(5)業務の効率化と経費節減

① 業務の効率化(ムリ、ムダ、ムラの排除、残業は月内 15 時間以内)

② 経費節減(見積合わせ等による通常経費-5%)

※EA21 活動を推進し、エネルギー削減目標を達成

浜松工科自動車大学校　令和7年度自己点検評価表

3. 評価項目の達成及び取組状況

機関評価

1　教育理念・目的・育成人材像

NO.	中項目	コード　NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	教育理念・目的・育成人材像	Ⅰ－	1－1	理念・目的・育成人材像は定められているか。	学生便覧に教育理念を記載し、入学直後のガイダンスで学生に配付した上で説明をしている。また、学科ごとにそれぞれ「3 つのポリシー」を設定し、同様に学生便覧に記載している。ディプロマ・ポリシーの中に具体的な育成人材像が設定されており、ホームページ、学生便覧などで周知を図っている。	4	特になし
2	学校の特色	Ⅰ－	1－2	育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合しているか。	企業と連携した授業を積極的に展開し、学生が直接業界ニーズを感じることができている。 令和7年度は自動車整備科において「職業実践専門課程」の申請を行った。また、継続しての整備業界関係者を含めたカリキュラム編成員会の開催し、育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合するように対応している。	4	特になし
3	学校の将来構想	Ⅰ－	1－3	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか。	中期構想として第１１次中期経営計画（2025～2027 年度）を策定し計画を推進している。令和6年度生より自動車システム工学科の定員を 25 名から 40 名に増員するなど、社会情勢を見越した対応を行っている。 令和 7 年 7 月の関連省令（指定自動車整備事業規則）の改正に伴い、1 級整備士のみが自動運行装置を備えた自動車を検査できる要件となり、1 級課程への募集活動の追い風となった。	4	令和8年度、完成年度となり運営基盤が軌道に乗る予定であるが、将来に渡り安定した学校運営を行うには5～10 年先を見据えた中長期経営計画の策定も必要と考える。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

学生便覧には教育理念や「3 つのポリシー」を掲載し、育成人材像はディプロマ・ポリシーの中に設定されている。
学校の将来構想については、中期経営計画にて設定しているが、将来に渡り安定した学校運営を行うには5～10 年先を見据えた中長期経営計画の策定も必要と考えている。
上記理由により、評価項目については概ね達成できていると評価している。

② 特記事項

3年毎に中期経営計画を立案・実行している。今年度は第11次中期経営計画の1年目。3つのポリシー（DP, CP, AP）を策定。
参考資料No.（1 令和7年度浜松工科自動車大学校組織図、2 令和7年度 目標と方針、4 第11次中期経営計画書、
6 学生便覧、57 情報公開資料（学校情報）、（学校ホームページ））

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	岡部 剛

2 学校運営

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	運営方針・事業計画	Ⅰ－	2－1	理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか。	第11次中期経営計画(2025～2027)を策定し、毎年度の事業計画及び予算計画に基づき運営を行っている。 ホームページには、「資金収支計算書」、「事業活動収支計算書」、「貸借対照表」、「事業報告書」、「財産目録」等が公開され、運営状況も明確にして運営方針・事業計画を明らかにしている。	4	第11次中期経営計画に沿って事業計画を進めているが、令和6年度のシステム工学科定員増に伴い、教材が不足しているため年度毎の事業計画は実情に修正しながら策定したい。
2	運営組織	Ⅰ－	2－2	設置法人は組織運営を適切に行っているか。	毎年度、学校法人から組織図及び目標と方針が示され、それに従い学校運営を行っている。 各所属の組織は所属長が幹部職員の意見を参考に立案しており、適材適所による運営が行われている。	4	特になし
3	人事・給与制度	Ⅰ－	2－3	人事・給与に関する制度を整備しているか。	服務規程により人事、給与については整備されている。 人事評価は本人に開示し、上司と本人との面談を通じてその取り組みの良否を伝え助言指導を行い、本人の成長を促している。 令和8年度は物価高騰等の理由により、全職員の給与が改定される計画である。	4	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

学校運営に関する人事、教務に関する規程等、組織の整備は整っており、毎年運営方針を定め、職員に周知徹底を図っている。また人事評価システムを運用し、評価の公開を実施しているが、概ね良好に機能している。
給与規程については物価高騰対策として見直しがなされ、処遇改善を行った。

② 特記事項

・第１１次中期経営計画（2025～2027）を策定し運用。
・人事評価システムによる評価の公開を実施。

参考資料No.（ 1 令和7年度浜松工科自動車大学校組織図、2 令和6年度 目標と方針、3 各課の目標と方針（教務）、4 第１１次中期経営計画書、5 令和7年度事業計画案、7 チャレンジシート・考課表、9 学務システム管理要領、16 会議一覧、57 情報公開資料（学校情報））

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	岡部 剛

3 教育活動

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	目標の設定	Ⅰ－	3－1	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育理念に沿って、育成人材の目標別(科別)に教育課程の編成をしており、その実施に当たっては、教育課程表を作成して授業カリキュラムを展開している。	4	特になし
2	教育方法・評価等	Ⅰ－	3－2	教育目的、目標に沿った教育課程を編成しているか。	目標達成に向かってカリキュラムを作成している。また、業界の目標にも配慮して格差が生じないように留意している。令和6年度からは教育課程編成委員会(カリキュラム編成委員会)の外部委員の意見を参考に改善を図っている。	4	特になし
3	成績評価・単位認定等	Ⅰ－	3－3	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価や単位認定、進級・卒業判定の基準は教務規定に明確に定められている。また、学生には学生便覧に明記して周知徹底をしている。	4	特になし
4	資格・免許の取得の指導体制	Ⅰ－	3－4	目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか。	自動車整備士の第一種養成施設の指定基準に則り教育課程を編成し、一級又は二級自動車整備士資格を取得するに必要な教育内容を設定している。	4	特になし
5	教員・教員組織	Ⅰ－	3－5	資格・要件を備えた教員を確保しているか。	国土交通省の定める教員の員数や能力は十分確保している。さらには、専門分野を担当する常勤教員は 13 名中 12 名が一級自動車整備士の資格を有している。	3	全教員 13 名の内、7 名が教員経験 3 年未満で自動車整備の経験はあるものの教員としてのスキルを積む必要がある。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

令和7年度は3学年体制となり、職員を増加させる必要があり、令和7年は2名の新規職員が加わった。全体で13名の職員が在籍しているが、7名が教員経験3年未満であり自動車整備の経験はあるものの教育の経験がないため、新人職員の授業力向上が本年度の課題となった。ベテラン職員が授業資料提供を行うと共に、授業へのアドバイスを実施することで授業力向上を試みた。今後は授業研究を積極的に実施し、さらなる授業力向上を目指して行きたい。

② 特記事項

令和7年度入れ替わりで企業から社員派遣1名 （2025.4～2027.3）

参考資料No.（2 令和7年度　目標と方針、3 各課の目標と方針（教務）、4 中期経営計画書、6 学生便覧、8 教職員の増減、10 資格試験結果一覧・整備士試験合格率推移、11 企業ニーズ調査資料、12 学則変更推移、14 授業研究報告書、15 授業アンケート結果　1期、2期分、18 研修計画・実績、22 インターンシップ実績報告、45 専修学校設置基準、52 教育課程編成に関する規程、カリキュラム編成委員会規程、53 カリキュラム編成委員会議事録、54 企業と連携した実習実績、57 情報公開資料（学校情報））

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村　敏和

４ 学修成果

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	就職率	Ⅰ－	4－1	就職率の向上が図られているか。	企業と連携して企業奨学制度を運用し、早期に企業と学生の結びつきを深めている。また、自校に各企業を招いて企業ガイダンスを実施し学生に対して就職への意識づけを行っている。令和7年度卒業生については学校斡旋就職希望者全員が採用内定をいただいた。	4	特になし
2	資格・免許の取得率	Ⅰ－	4－2	資格・免許取得率の向上が図られているか。	令和7年度はソーシャル検定中級（A,E 科のみ）合格率 94.3%、ソーシャル検定上級（E 科3年生）合格率 89.5%で全国平均を上回った。また、1年生では研削砥石特別教育、アーク溶接特別教育、タイヤ空気充填特別教育の資格を全員が取得した。また、巻上げ機の特別講習の資格は2，3年生合計 111 名全員が取得できた。危険物乙種 4 類は希望者のみ受験したが合格者はいなかった。中古車査定士の合格率は 90.5%で 2 名不合格であった。日本語能力検定合格率は N1：9.5%、N2：12.7%、N3：41.2%であった。	3	危険物乙４類、日本語能力検定について資格試験対策の方法を再度検討し合格率アップを目指していく。
3	卒業生の社会的評価	Ⅰ－	4－3	卒業生の社会的評価を把握しているか。	本校では、令和6年度に自動車整備科１期生２２名を輩出したが就職して1年目であり職場において技能コンクール等に出場していない状況ではあるが、自動車整備科2年生、国際オートメカニック科３年生の各企業へのインターンシップ巡回時や本校に来校する企業様に対して卒業生の様子を伺うなど、就職企業と密な関係を保ち卒業生の情報収集を行っている。	3	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

自動車整備士の売り手市場が続き採用内定を得やすい状況が続いているが、整備業界の離職者が少なくなっており今後有効求人倍率が下がっていくことが予測されるため企業側が求める人材を育成し油断せず今後も継続して就職活動支援に尽力していく。
危険物の合格率向上策については、効率的な資格試験対策授業のやり方、つまり資格対策のシステム化を毎年研究してより高い実績を求めたい。
日本語能力検定については、学習しなければならない分野が非常に広いので、資格試験対策授業に頼るのではなく、日々の活動を通して日本語のコミュニケーションに慣れさせることから始める必要性を感じる。
卒業生の活躍・成長については、今後企業調査の実施方法を検討する。

② 特記事項

参考資料No.（9 学務システム管理要領、10 資格試験結果一覧・整備士試験合格率推移、11 企業ニーズ調査資料、19 科別進路状況、就職成果、20 退学者推移、52 教育課程編成に関する規程、カリキュラム編成委員会規程、53 カリキュラム編成委員会議事録）

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村　敏和

５ 学生支援

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	就職等進路	Ⅰ－	5－1	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	無料職業紹介所の届け出を行い、多数の求人獲得に努めている。令和7年度から浜松工科単独で企業ガイダンスを実施し、Careermap の運用により常に企業研究、企業比較ができる体制を整備している。また学生に対しては、職業指導の基本方針を明示し、担任による就職意識の向上、書類作成指導、面接指導を行っている。	3	今後社会情勢により留学生の就職が困難になることが想定される。企業に選んでもらえるよう日本語能力の向上に努めたい。
2	中途退学への対応	Ⅰ－	5－2	退学率の低減が図られているか。	年度初めに、最大退学人数の目標値を定め、これを越えないように学生状況を把握し、職員会議等により職員の退学率低減意識を高め、組織的に退学者の減少に務めている。 進路に不安のある学生の早期発見、早期対応に努め、その兆候が見られた場合には、担任が中心となり、学生との面談や父母等との面談を繰り返し退学を防止している。	4	令和6年度に比べ R7 年度は退学率はかなり低下した。日頃から担任が学生の様子を伺い面談や父母等への連絡を実施している効果であると考える。今後もきめ細かい指導を実施していく。
3	学生相談	Ⅰ－	5－3	学生相談に対する体制を整備しているか。	学生からの相談は、主にクラス担任が対応し、更に教務課長がカバーしている。また、ハラスメントに関する相談担当者も専任化されており、保健室、面談室なども用意している。授業料等納付金に関しては総務課、就職活動については担任又は就職指導担当者が窓口になっている。	4	特になし
4	学生生活	Ⅰ－	5－4	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	本校独自の企業奨学・推薦制度、特待生選抜制度、日本学生支援機構の奨学金制度、入学生下宿サポート制度、指定校推薦生の入学金の一部減免等、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能している。また、学納金も 4 回に分ける分納も支援になっている。その他、高等教育の修学支援機関としても認定されている。	4	特になし

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
5	父母等との連携	Ⅰ－	5－5	父母等との連携体制を構築しているか。	父母等を正会員とする後援会組織があり、年１回実施される後援会総会後に各クラスでクラス担任と保護者との懇談会や個別相談会を実施している。1学期には保護者授業参観会、2学期には個別進路相談会を実施し、必要に応じて電話連絡により学生の状況を父母等に連絡報告し、学生状況に関する相互理解に努めている。	4	特になし
6	卒業生・社会人	Ⅰ－	5－6	卒業生への支援体制を構築しているか。	卒業生に対しては①企業担当者からの聞き取り、②インターンシップの訪問時の確認、③サービス技術コンクールでの活躍確認を行うことを計画し、このうち①、②は今年度実施した。③は令和7年3月に卒業した学生に該当がなかったため実施していない。 また、整備士資格未取得があった場合には就職先企業と連携し、資格取得のフォローを行う予定がある。また、定期的に同窓会役員会を実施して、卒業後、数年経った離職者情報等を把握し、就職支援を行う予定である。	3	令和7年度から浜松カーフェスティバルを開催した。卒業生も多数来場していたため今後この催しを卒業生の状況確認ツールとして活用していきたいと考えている。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

高等教育修学支援制度、日本学生支援機構等の奨学金制度、特待生授業料減免、下宿支援金、通学費サポート、企業奨学・推薦制度等により、学生の経済的側面に対する支援が確実に整備され、有効に機能している。また、学生の様々な悩みを早期の段階で察知し、励ましや助言、指導を行う教職員個々の指導力（カウンセリング技術など）は現状でも十分に機能しているが、全学生とその父母等が満足できるレベルに向上させる努力が必要である。卒業生に対する支援については、今後卒業生数が増えていくため、しっかりとした支援体制を構築していきたい。また就職支援体制については、電子求人システム（キャリアマップ）を採用し家庭でも企業情報の閲覧ができるようになり、特に父母等が就職活動の支援をしやすい状況になった。

② 特記事項

本校は新設して3年目の若い学校ではあるものの、静岡工科自動車大学校での勤務経験があり、学生支援に長けた職員がいるため、充実した学生支援体制が作られている。一方、新任教員は自身が学生時代に受けた支援に比べ非常に手厚くなっている部分があり、早期に慣れてもらう必要がある。

参考資料No.（1　浜松工科自動車大学校組織図、6 学生便覧、11 企業ニーズ調査資料、19 科別進路状況、就職成果、21 学生マスタ確認票、24　令和6年度　行事予定表、25 入学に関する諸連絡、26 学校医委嘱受諾書、27 クラブ活動実績、28 合格者の手引き、29 学生さんのための下宿・アパート情報、30 保護者参観会実施要領、保護者相談会実施

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村　敏和

６ 教育環境

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	施設・設備等	Ⅰ－	6－1	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか。	自動車整備士養成施設の指定等の基準により、1.教室や実習場における生徒一人当たりの面積、2.実習で使用する教材、作業用機器、計測機器、検査用機器、3.使用される教科書等について明確に規定されており、これら第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用している。 教育用機器、機材に関しては中期経営計画に沿って年度ごとに計画的に購入していくと共に、自動車の新技術に対応するための機器・教材等の導入等、教育環境の充実に努めている。	３	１，２年生が使う教材については整備されている。また、３，４年生が使用する教材・機器については事業計画で充実を図っていく計画である。
2	学外実習等	Ⅰ－	6－2	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	１年生に対してはそれぞれの学科について、企業が行う実習（校内）を 2 社ずつ、2年生に対しては 1 社ずつ実施した。自動車整備科2年生は8月、国際オートメカニック科3年生は11月に就職内定先においてインターンシップを実施した。	４	特になし
3	防災・安全管理	Ⅰ－	6－3	防災に関する組織体制を整備し、適切に運用しているか。	災害等対策対応マニュアルを備え、教職員への地震災害時の連絡体制については Google のクラスルーム及び LINE WORKS で安否確認を行うこととしている。緊急時の連絡体制は学生にも周知され、ホームページで緊急時の対応策が確認できる体制がある。災害時の備蓄品を整備し、学生数の 2 日分の食料等が備蓄されている。また、防災訓練（避難訓練）も年2回、火災、地震と目的に応じ実施している。	４	災害備蓄品の充実を図っていく予定である。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

教育環境に関しては、教育のデジタル化を推進している。ペーパーレスを目指し PC 又はタブレットを用いて受講する体制が整っている。またその運用を行う職員側のスキルも上がり支障なく遂行できておりデジタル化前と教育効果について遜色がない状態になっている。
防災・安全管理については、今後足りていない備蓄品を精査し、購入していく必要があると考える。

② 特記事項

教育環境の整備は3年毎の中期経営計画に従い実施している。

参考資料No.（4 中期経営計画書、22 インターンシップ実績報告、23　令和6年度　学外実習等、33 消防計画、36 避難訓練実施要領、防災訓練実施要領、54 企業と連携した実習実績）

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村　敏和

7 学生募集

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	学生募集活動	Ⅰ－	7－1	学生募集を適切かつ効果的に行っているか。	学生募集活動に関しては校内ガイダンス、会場ガイダンスへの参加、模擬授業の実施、本校での体験実習及び公開授業など積極的に取り組んでいる。高校や日本語学校の見学会も積極的に受け入れている。 令和 7 年度は関連省令(指定自動車整備事業規則)の改正に伴い 1 級整備士の需要が高まることを見据えた募集活動が効果的であり、1 級課程の募集が良好に推移した。	4	他校との差別化を行うべく、当校の特色づくりが必要。令和 8 年度以降、現役メカニックによる授業展開を行い、差別化を推進していく。
2	入学選考	Ⅰ－	7－2	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。	入学選考基準を募集要項で明確化し、適正に運用している。また、本校ホームページに各学科のディプロマポリシーからアドミッションポリシーを明記しており、受験生に対してミスマッチが起きないように配慮している。	4	特になし
3	学納金	Ⅰ－	7－3	経費内容に対応し、学納金を算定しているか。	各学科の学納金は、静岡工科に準じて設定されている。 JAMCA 校(特に中部・関東エリア)の学納金、競合他校の学納金を参考として、経常経費依存率、人件費依存率等の諸比率を総合的に勘案し設定している。また、学生負担の軽減に対して様々な取り組みを行っている。	3	物価高騰及び職員の処遇改善により経費が増大しているため、学費の引き上げが必要な状況である。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

オープンキャンパス等の校内イベント参加者数は前年度+20%の目標を概ね達成した。オープンキャンパス等からの出願率は 74%程度にとどまったが、目標設定値をクリアしたことで入学定員 90 名を確保することができた。今後オープンキャンパス等の動員数は頭打ちになる可能性が高いので、出願率を 80%以上になるような施策を展開したい。

② 特記事項

特になし。 参考資料No.（37 学校パンフレット、38 学生募集要項、39 令和7年度入試応募者数一覧、57 情報公開資料（学校情報））

最終更新日付	令和8年3月31日	**記載責任者**	岡部 剛

8 財務

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	財務基盤	Ⅰ－	8－1	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか。	事業活動収支においては、令和7年度の在籍数が190名と前年度より大幅に増加したため収支も大幅に改善されたが、減価償却費による影響が大きいため、収支は未だマイナスとなっている。令和8年度の在籍数は250名に達する予定であり、財務基盤は中期経営計画どおり安定する見込みである。	4	退学者数、入学生数、上級課程への進学者数の目標達成により、財務基盤が安定してきた。賃上げ、物価高による収支悪化を学費の値上げにより対応したが、今後も引き続き経費節減に努め収支改善に努めていく。
2	予算・収支計画	Ⅰ－	8－2	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか。	中期経営計画(2025～2027 年度)を策定する中で、教育目標を踏まえた事業計画(活動、予算)を策定している。昨年よりは計画外の費用は減少したが、本年度も計画外の費用が生じることがあった。	3	開校3年目であるが、計画外の支出が度々あった。予算管理者が実績と整合性を図り精度の高い予算を立案する必要がある。
3	監査	Ⅰ－	8－3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を行っているか。	監査法人により、「当年度事務処理状況調査、及び財務諸表各項目」について厳正に監査を行っている。 財務運用の業務そのものについても、法人本部による内部監査で問題がないか確認している。	4	特になし
4	財務情報の公開	Ⅰ－	8－4	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	当校は新設校のため、その母体である静岡工科の当年度財務諸表一式、及び、その前 3 か年の主要財務数値を、HP上に公開し、第三者からその財務状況が十分確認できる状態に維持している。	4	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

経営基盤を安定させるためには在籍数の確保が重要であり、本年度は在籍数が190名に増えたこともあり、徐々にではあるが安定した経営基盤になっている。今後も入学定員の充足、休退学者の減少に努め、さらなる安定経営に向け努力していく。

② 特記事項

特になし。

参考資料No.（42 主要財務数値、43 令達予算書、補正予算書、44 会計監査計画書、57 情報公開資料（学校情報））

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	岡部 剛

９ 法令順守

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	関係法令・設置基準等の順守	Ⅰ－	9－1	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	令和5年に専修学校設置基準に則り、専修学校専門課程の設置認可を受け、また、第一種自動車整備士養成施設の指定も受け、その基準の中で運用を続けている。併せて自動車特定整備工場の認証も受け、関係法令に従って運用している。	4	特になし
2	職業実践専門課程認定要件	Ⅰ－	9－2	職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか。	職業実践専門課程の認定申請は今年度（R7 年）自動車整備科について申請を行った。なお、国際オートメカニックは R8 年度、自動車システム工学科は R9 年度に申請を行う。	3	特になし
3	個人情報保護	Ⅰ－	9－3	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか。	個人情報保護規程を策定し、内外に公表するとともに、校内で徹底し、年に1回職員研修を実施すると共に、法人本部の内部監査で規程に沿って個人情報が扱われているかどうかを確認している。また、学生情報を提供する企業とは機密保持契約を締結している。	4	特になし
4	学校評価	Ⅰ－	9－4	自己点検評価、学校関係者評価を適切に行っているか。	自己点検評価は令和5年度分から取りまとめている。学校関係者評価は令和6年度から実施し、結果を本校 HP に掲載している。	4	特になし
5	教育情報の公開	Ⅰ－	9－5	教育情報について定期的に公表しているか。	科目等の概要についてシラバスに記載し本校ホームページで公開している。	4	令和6年度の教育実績について公開済みである。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

法令、専修学校設置基準等の情報は県教育振興会、県私学振興課、運輸支局及びJAMCAから入手している。また、年1回、法人本部による業務監査及び監事による業務監査を行い、改善・指摘事項については改善策を講じ対応している。
個人情報保護の管理については、パソコンのLANへの接続制限や個人情報の学外持ち出しの制限など、みだりに個人情報が漏れ出ることを防いでいる。
自己点検評価及び学校関係者評価については毎年実施し、PDCA サイクルによる教育活動の改善を図り、教育成果にもその効果が表れるよう検討している。令和8年4月に学校教育法が改正で今後は5年に1度第三者評価を受審する。本校は令和10年又は11年に受審予定である。

② 特記事項

・毎年、法人本部による業務内部監査及び監事による内部監査を実施。
・自己点検評価の他、学校関係者評価を毎年1回（5月）に実施。
・学校情報は学校ホームページに掲載し、最新の情報を公開。
参考資料No.（57 情報公開資料（学校情報））

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村　敏和

１０ 社会貢献・地域貢献

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	社会貢献・地域貢献	Ⅰ－	10－1	学校の教育資源を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか。	中学生、高校生の職場体験実習の受け入れ、エンジョイ・カードクターへの出展、お仕事フェアへの出展、浜松カーフェスティバル 2025 の開催等広く自動車業界、整備業界のPR活動に参加している。 また、県自動車整備振興会への講師派遣も行っている。	4	特になし
2	ボランティア活動	Ⅰ－	10－2	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。	本年度は学生が長期休み（夏休み、冬休み）に入る前に学校周辺の清掃を実施した。今後は徐々にボランティア活動の実施回数を増やしていきたいと考えている。	3	今後は自活を中心としてボランティア活動を企画、実行する流れを構築していく。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

・本年度は中学生と高校生の両方の職場体験受け入れ依頼があった。
・自治会主催で学校近隣の清掃活動を積極的に実施していきたい。また、参加可能なボランティア活動を新たに開拓し参加する計画を立てることをしていきたい。

② 特記事項

高校生等整備体験受入れ 18 回 302 名
参考資料No.（34EA21手順書（バッテリ、ガス溶接）、48 生涯学習資料、49 附帯教育事業資料、50 EA21活動実績、51 ボランティア活動資料）

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村 敏和

11 国際交流

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	受入	Ⅰ－	11－1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか。	留学生の受入れは、二級整備士資格を 3 年間で無理なく取得できるカリキュラムを有した「国際オートメカニック科」を設置し、令和7年度は期首在籍73名となっている。また、令和7年度に国際オートメカニック科1期生が卒業し全員が整備士資格を取得し、日本国内に就職が決定している。	3	現状本校の学科教室数、実習場の面積に限度があるため、現在の定員 25 名から増加することができない。
2	在学管理	Ⅰ－	11－2	留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか。	各担任がビザの確認を行い、更新時期を管理していると共にビザ更新の手続きも担当し適切で確実にビザ更新ができるような体制となっている。令和7年度は名古屋出入国在留管理局から「適正校（クラスⅡ）」に選定された。	4	ビザの更新、就労ビザへの変更許可や休退学があった場合の届け出などに学校として積極的に関わり、きちんと在籍管理を行った。
3	指導体制	Ⅰ－	11－3	留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか。	各担任が日頃の生活についてきめ細かな指導を行っている。また入学時には生活指導をガイダンス中に実施している。	3	課税証明書の確認を行うことで入管法施行規則に定められた週当たり 28 時間のアルバイト時間を守らせるよう工夫している。
4	学習成果	Ⅰ－	11－4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。	資格取得率を本校 HP や体験実習の中で宣伝している。また、募集の関係で日本語学校へ訪問した際には学生の様子を報告するようにしている。	4	令和7年度国際オートメカニック科1期生が卒業し、15名全員が2級整備士資格を取得した。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括特記事項

在籍学生の約40%が留学生である。少子化と自動車離れで自動車整備業を目指す日本人の若者が少ない分、留学生への期待の声が年々大きくなっている。留学生は日本にとって貴重な戦力であることを認め、お互いを尊重し、協力しあう態勢作りが必要である。また、留学生が日本で就職することができるように各自動車系ディーラー企業との連携を強め、留学生の就職先確保に努めていかなければならない。

② 特記記事

令和7年度　留学生在籍数71名（ネパール、ベトナム、スリランカ、ミャンマー、フィリピン、バングラデシュ、ブラジル、インドネシア）
参考資料No.（1 浜松工科自動車大学校組織図、6 学生便覧、55 留学生在籍管理資料）

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村　敏和

職業実践専門課程認定要件適合評価

12 職業実践専門課程の認定要件

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	教育課程編成委員会	Ⅱ－	1－1	委員構成、開催回数、教育課程の編成内容	教育課程の編成・実施の方針については学校として、また各科ごとに「カリキュラムポリシー」が文章化されいる。 教育課程の編成における企業等との連携については「浜松工科自動車大学校カリキュラム編成委員会」を組織し、静岡県整備振興会より1名、就職関連企業から2名の参加により、合計3名の外部委員と学内委員との構成によりカリキュラム検討を年二回実施している。また、議事録はホームページでも公開している。	4	特になし
2	企業連携(教育)	Ⅱ－	1－2	企業等と連携した実習・演習等の実施	1 学年については、定期点検実習科目で外部ディーラーの方に授業指導を行っていただいている。また 2 学年については、大型車両実習科目で外部ディーラーの方に授業指導を行っていただいている。それらの科目については、企業の方に試験問題を作成いただき外部評価を受ける形をとっている。	4	特になし
3	企業連携(FD)	Ⅱ－	1－3	企業等と連携した組織的な教員研修の実施	教員のFD活動については、教育力の向上を目的に積極的に外部の講習に参加している。 自動車整備振興会主催の新技術研修に対しては、教職員全員が参加し先進技術の修得に努めている。	4	特になし

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
4	学校関係者評価	Ⅱ－	1－4	学校関係者評価の実施・公表	学校関係者評価委員会のメンバーとしては業界関係者として自動車整備振興会、就職関連企業、父母等、卒業生それぞれの代表で合計4名での運営をしている。年1回開催し、学校関係者との理解促進や連携協力を図るとともに、自己点検自己評価報告に対する助言・意見などの結果を教育活動および学校運営の改善に活用する予定である。また、学校関係者の確認を得た自己点検評価報告書はホームページ上で公開している。	4	特になし
5	情報公開	Ⅱ－	1－5	ホームページにおける情報提供	自己点検評価および学校関係者評価委員会議事録等は HP に定期的に公開している。 職業実践専門課程の報告様式である様式 4 についても HP にて公開、更新を行っている。	4	特になし

① 評価項目総括

教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会は令和6年度から開催し、継続的に毎年実施している。
企業との連携も小型・軽自動車企業11社と協定を結び、大型自動車企業は4社と協定を結んでいる。

② 特記事項

参考資料 No.(18 研修計画・実績、52 教育課程編成に関する規程、カリキュラム編成委員会規程、54 企業と連携した実習実績)

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村 敏和

国土交通省自動車整備士一種養成施設指定基準に基づく評価(分野別評価・機関評価に相当)

1　教育理念・目的・育成人材像

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	道路運送車両法　第１条	Ⅲ－	1－1	道路運送車両法第１条に基づき自動車整備士の養成を目的としているか。	道路運送車両法の目的である自動車整備技術の向上、コミュニケーション能力を備えた人材の育成を通して、社会の要望に添える整備士の養成をしている。また、目的の達成のため、国が定めた自動車整備士養成等の指定基準に適合した施設・教育者等を整備し、新技術に対応した教育等の実施、コミュニケーション能力、情勢を的確に分析しその変化に柔軟に対応できる能力及び国際性を持ち合わせた人材の育成により、社会のニーズを達成できる整備士の養成に努めている。なお、当校は特定整備事業の認証を取得しており、実践的な作業を経験できる環境となっている。	4	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

自動車整備士の育成については、基礎基本となる技能の習得に重点を置いているが、100年に一度といわれる自動車テクノロジーの大変革期にも対応できるよう、最新の機器、教材を揃え教育活動を行っている。また常勤教員1級整備士を取得しており、質の高い教育を行うことができる体制を整えている。

② 特記事項

令和5年6月6日　自動車特定整備事業(普通・小型)の認証取得
1級整備士資格取得教員数13名(令和6年度)
参考資料(国土交通省自動車整備士一種養成施設指定申請書類

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	岡部　剛

2 学校運営

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	2. 学則又は規則及び細則 (1)課程の名称 (2)定員 (3)修業の年限又は入学時期及び卒業時期 (4)入学資格 (5)休日及び休業 (6)始業、終業時間及び1教育単位時間 (7)当該課程修了の教育時間(高校の場合は単位) (8)成績判定基準(出席日数及び合格点等)	Ⅲ一	2−1	道路運送車両法部長 業務取扱通達別表「添付書類一覧」添付書類1. 2. に基づき運営され、国交省の定期調査によって承認されているか。	令和5年に自動車整備士養成施設の指定を受け、申請書等に記載されている整備士養成に係る課程の種類、修業年限、教育時間単位、教育を実施する施設・設備、当該課程修了及び成績判定基準等について基準に即して運用している。 また、ディプロマポリシーの制定により、自動車整備士資格を取得し社会で活躍するための卒業要件を明示し、その教育に対する評価のシステムも充実させ、その到達レベルを保証している。	4	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

当校の教務規程は自動車整備士一種養成施設の指定基準に従い策定、運用しているため特に問題は感じていない。
コンプライアンスを順守するエンジニアを育成するようコンプライアンス教育にも力を入れている。

② 特記事項

参考資料 No.(6 学生便覧)、国土交通省自動車整備士一種養成施設指定申請書類

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	岡部 剛

3 教育活動

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	6. 教育科目別時間配分表	Ⅲ－	3－1	道路運送車両法 部長 業務取扱通達別表「添付書類一覧」添付書類6. 7. に基づく教育内容で運営され、国交省の定期調査によって承認されているか。	令和5年に第一種自動車整備士一種養成施設指定申請を行い指定を受けた。令和6年度からはその内容に従い教育活動を行っている。	4	特になし
2	7. 教育計画表	Ⅲ－	3－2	部長 基準取扱通達別表「添付書類一覧」添付書類 7. の基準に基づく教育内容で教育計画表(二級課程及び一級課程)を作成し、それよって運営され国交省の定期調査によって承認されているか。	令和5年に第一種自動車整備士一種養成施設指定申請を行い指定を受けた。令和6年度からはその内容に従い教育活動を行っている。	4	特になし

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
3	(9)当該課程修了の教育時間(高校の場合は単位)(10)成績判定基準(出席日数及び合格点等)	Ⅲ－	3－3	部長 業務通達第4 養成施設の報告の基準に基づき教育実績が年度毎報告され、国交省の定期調査によって承認を受けているか。	令和5年度の実績は令和6年4月に、令和6年度の実績は令和7年4月に中部運輸局へ報告済みである。毎年期限までに実績報告書を提出できており、支局から指摘は受けていない。	4	特になし
4	4. 教育を行う者(指導員)の一覧表と資格	Ⅲ－	3－4	部長 業務取扱通達 別表「添付書類一覧」添付書類4. 5に基づく教育の資格および配置により運営し、国交省の定期調査によって承認されているか。	令和5年に第一種自動車整備士一種養成施設指定申請を行い指定を受け、令和6年度からその内容に従い教育活動を行っている。 また、新規に職員が採用された場合は随時教育を行う者(指導員)一覧と資格を更新している。	4	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

令和7年度分の実績報告は令和8年4月に提出する予定である。

② 特記事項

参考資料(国土交通省自動車整備士一種養成施設指定申請書類、学則、教務規定)

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村 敏和

4 学習成果

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	養成施設の報告書	Ⅲ－	4－1	部長 業務通達 第 4 養成施設の報告の基準に基づき資格合格率等が年度毎報告され、国交省の定期調査によって承認を受けているか。	令和6年度分の実績は令和7年4月に報告済みである。また、令和7年度分の実績を令和8年4月に報告するよう準備をしている。国交省による定期調査はまだ行われていない。	4	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

特になし

② 特記事項

特になし

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村 敏和

6 教育環境

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	必要設備等一覧表	Ⅲ－	6－1	局長通達 教場、必要設備等一覧表の基準に基づき配置され、国交省の定期調査によって承認を受けているか。	令和5年に第一種自動車整備士養成施設の指定申請を行い、教場、必要設備等一覧表の基準に基づき配置されていることが確認されている。また、年々学生数が増加していることから必要な教材、機器を随時増やしている。	4	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

令和7年度に二級自動車整備士新課程（総合）の届出を行った。

② 特記事項

参考資料 国土交通省自動車整備士一種養成施設指定申請書類

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村 敏和

9 法令の順守

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1	道路運送車両法	Ⅲ－	9－1	道路運送車両法の一種養成施設設置基準に基づく学校運営を行っているか。	令和5年に第一種自動車整備士一種養成施設指定申請を行い指定を受けた。令和6年度からはその内容に従い教育活動を行っている。	4	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

第一種自動車整備士一種養成施設の指定を受け、それに従い教育活動を展開している。

② 特記事項

参考資料 国土交通省自動車整備士一種養成施設指定申請書類

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村 敏和

自動車整備士分野の教育の質保証・特徴化に向けた取り組み内容の評価(分野別評価に相当)

3 教育活動

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1		Ⅳ－	3－1	教員の専門性向上、教育力向上に向けた特徴ある取り組みや成果	職員研修の中で授業研究として授業内容の統一を図ることを目的として教職員の意見交換を実施した。また、新採用教員についてはベテラン教員が手本を見せ、それを模して授業展開させている。FD 推進において研修制度の充実について実現を図っている。	3	職員対象の授業研究の充実を図っていく必要があるため、FD 推進を中心に授業研究について検討をしていく。
2		Ⅳ－	3－2	教育の質保証、質向上に向けた教育内容やシステムにおける特徴ある取り組みや成果	「工科技能検定の実施」 実習科目において修得した技能を科目の履修判定試験の他に総合的に評価する独自の技能検定を学生全員を対象に実施し評価している。	4	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

授業資料の共有化は図られているが、教え方に不安を持つ職員もいるため授業研究や指導方法の研修を今後積極的に実施していきたい。

② 特記事項

参考資料　令和7年度職員研修実績、工科技能検定について

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村　敏和

4 学修成果

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1		Ⅳ－	4－1	国家資格の合格に向けた特徴ある取り組みや成果	二級自動車整備士問題をデジタル化し、ペーパーレスで実施できるようにし、学生がいつでも問題に取り組める環境を構築している。また資格対策では少人数によるグループ分けを行い、個別指導を可能とする方法を取り入れている。	4	今後は試験問題の年度更新(追加)を年度の早い段階で実施しいつでも使用できるようにしていく。
2		Ⅳ－	4－2	就職率、就職の質向上に向けた特徴ある取り組みや成果	企業と連携し、企業奨学生制度を導入する中で、奨学生が早期から複数回、企業と接触する機会を作り、企業の中身をよく知った上で採用試験を受験している。こうしたことがミスマッチを防ぐことにつながっている。	4	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

整備士問題だけにとどまらず、危険物、ソーシャル検定、日本語能力検定等、様々な資格の問題をデジタル化(Google フォーム)している。学生が反復回答することには非常に適した手段となっている。

② 特記事項

参考資料 一級自動車整備士問題解説動画

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	西村 敏和

0 全般

NO.	中項目	コード NO.		小項目(主な内容)	実施内容等	自己評価	課題と改善策
1		Ⅳ－	0－1	その他学校としての特筆すべき特徴ある取り組みや成果	「常勤教員はすべて1級整備士」 教員の採用に際し1級取得を必須としており、優秀な教員の獲得に努めている。 「企業奨学生制度　協力企業130社以上」 学費負担軽減及び早期に就職先が決定する企業奨学生制度を推進しており、入学生の獲得に効果を発揮している。 「3つのポリシー制定」 学校並びに学科ごとにそれぞれ「3 つのポリシー」を設定している。ディプロマ・ポリシーの中に具体的な育成人材像が設定されており、ホームページ、学生便覧、教室での掲示などで周知を図っている。 その他カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの公表により、学校運営や教育内容について個々の項目ごとにポリシーに準拠している科の認識が高まり、高い教育の質を実現するための指針となっている。	4	年度当初は常勤教員 14 名がすべて1級整備士資格を取得していたが、年度末に 1 級未取得の教員 1 名を採用したため、「常勤教員はすべて1級整備士」というキャッチフレーズは今後使用しない。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

当校は開校 3 年目の新設校であり、最新の教材、機器により新時代のエンジニアを育成できる環境を備えている。1級整備士教員比率が高く、企業奨学・推薦制度の充実が図られている。令和 8 年度は現役メカニックによる実習を導入し、独自の取り組みとして広報活動にも積極的に取り入れている。

② 特記事項

令和7年度は当初常勤教員 14 名がすべて1級整備士資格を取得していたが、年度末に 1 級未取得の教員 1 名を採用したため、「常勤教員はすべて1級整備士」というキャッチフレーズは今後使用しない。

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	岡部　剛

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1. はじめに：開校 3 年目の歩みと本年度評価の意義

本校は「技術者の育成をもって地域社会に貢献する」という教育理念のもと、専門学校浜松工科自動車大学校として産声を上げ、本年度で開校 3 年目を迎えました。この 3 年間、私たちは「社会のニーズにマッチした高いレベルの専門教育と人間性の育成」というビジョンを掲げ、急速に変化する自動車業界の要請に応えるべく、教育環境の整備と質の向上に邁進してまいりました。本年度の自己点検評価は、第 11 次中期経営計画（2025～2027 年度）の初年度としての取り組みを総括する極めて重要な節目となります 。全教職員が一致団結して取り組んだ結果、教育活動の根幹となる各項目において概ね「適切」または「ほぼ適切」との評価を得ることができました。以下に、本年度の具体的な目標達成状況と今後の課題について、学校長の立場から総括いたします。

2. 重点目標の達成状況：募集・資格・就職の三位一体

本年度の最重点目標として掲げた「入学募集定員の充足」については、新入生充足数 90 名（自動車システム工学科、自動車整備科、国際オートメカニック科の合計）という目標を達成することができました。特に、法改正に伴う一級自動車整備士の需要高まりを的確に捉えた募集活動が功を奏し、上級課程への誘導も順調に推移したことは、本校の将来構想に向けた大きな一歩です。学修成果の指標である資格取得および就職についても、特筆すべき成果が得られました。二級自動車整備士の合格率 100%維持に向けた徹底指導に加え、ソーシャル検定等でも全国平均を上回る実績を残しています。就職においては、企業奨学金制度の導入や企業ガイダンスの充実により、学校斡旋希望者全員が内定を勝ち取ることができました。これは、学生一人ひとりの努力はもちろん、担任教職員によるきめ細かな進路指導と、業界ネットワークの強固な構築が結実した結果であると確信しています。

3. 教育の質の向上と組織力の強化：若手教員の育成とデジタル化の推進

教育活動の質的側面においては、課題と成果が明確になりました。現在、全教員 13 名のうち 7 名が教員経験 3 年未満という構成であり、実務経験は豊富ながらも「教育のプロ」としてのスキル向上が急務となっています。これに対し、ベテラン職員による授業アドバイスや授業研究、研修参加を積極的に実施し、組織全体の指導力底上げを図りました。

また、教育環境のデジタル化（ペーパーレス化）は着実に浸透しています。PC やタブレットを活用した授業展開は、学生の反復学習に非常に適した手段となっており、デジタルトランスフォーメーション（DX）を通じた教育効果の維持・向上を確認できました。今後は、3・4 年生が使用する高度な実習教材・機器のさらなる充実を図り、自動運行装置等の最新技術に対応できる体制を盤石なものにしてまいります。

4. 学生支援と社会貢献：一人ひとりに寄り添う教育の展開

学生支援に関しては、経済的支援制度の整備と退学率の低減に注力しました。本校独自の奨学制度や修学支援制度が有効に機能しており、学生が安心して学業に専念できる環境が整っています。特に中途退学への対応については、担任が学生の僅かな変化を察知し、父母等との密な連携を行うことで、前年度と比較しても退学率を大幅に抑えることができました。社会・地域貢献においても、「浜松カーフェスティバル」の開催や中高生の職場体験受け入れなどを通じ、地域における「選ばれる学校ブランド」としての認知度を高めることができました。卒業生が地域の整備現場で活躍し始める中、今後は同窓会組織の活性化を図り、卒業後の継続的なキャリア支援体制も強化してまいります。

5. 結び：持続可能な学校経営と次なるステップへ

財務面においては、在籍学生数が 190 名へと大幅に増加したことで、中期経営計画に沿った安定した経営基盤が構築されつつあります。物価高騰や処遇改善による経費増大という課題はありますが、収支構造の改善と効率的な学校運営を徹底し、持続可能な教育サービスを提供し続ける所存です。

今回の自己点検評価を通じて浮き彫りになった「資格取得率のさらなる向上（特に留学生の日本語能力および難関資格）」や「若手教員の授業力研鑽」といった課題に対し、PDCA サイクルを確実に回し、改善に取り組んでまいります。浜松工科自動車大学校は、これからも地域社会と業界の期待に応え、学生一人ひとりの夢を叶える「質の高い教育の場」であり続けることを約束し、総括といたします。

最終更新日付	令和8年3月31日	**記載責任者**	岡部　剛